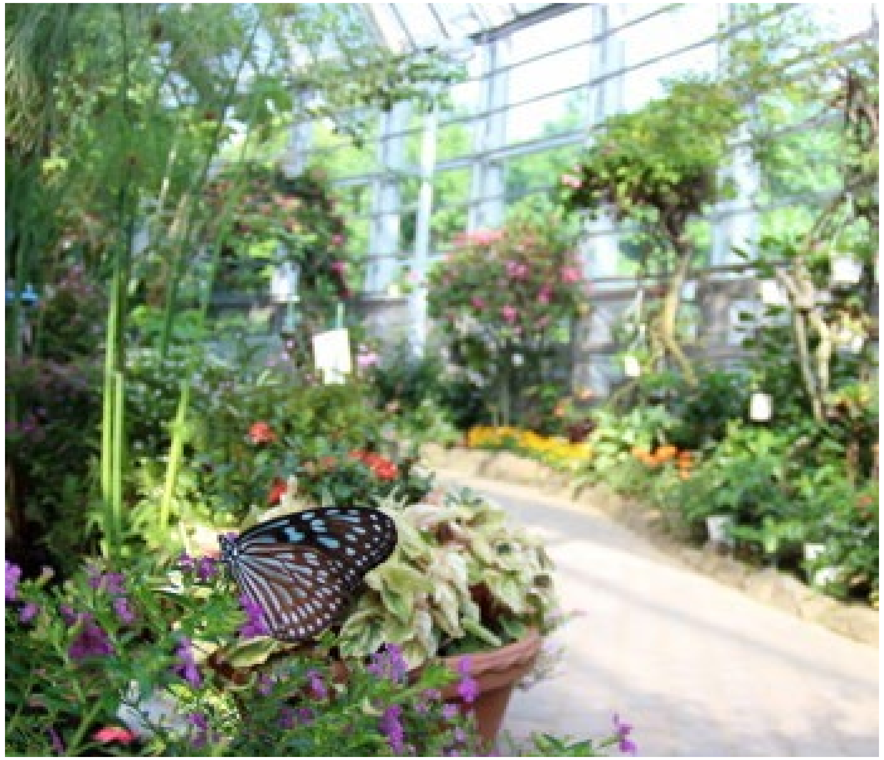
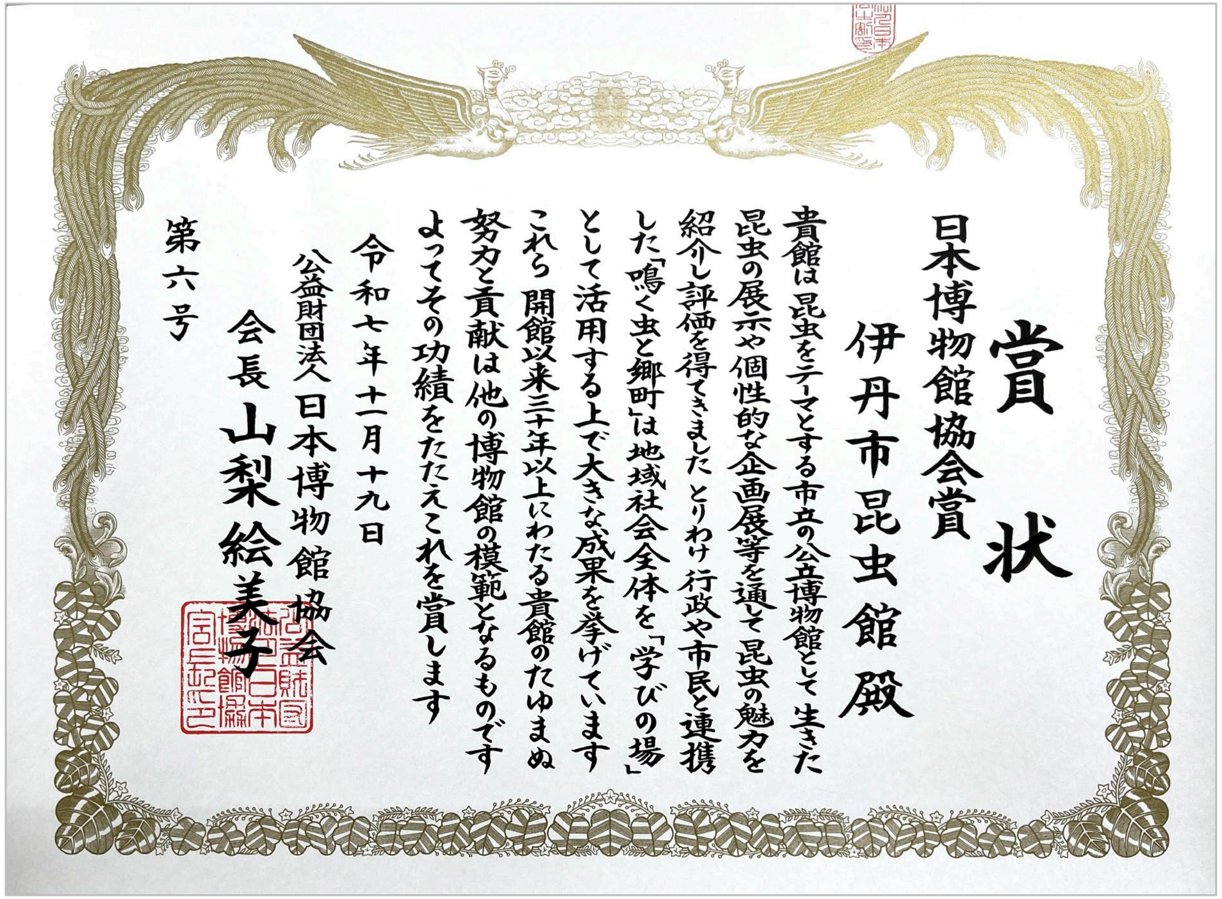
全国博物館館長会議
2026年7月10日14:20-14:40

小さな虫と地域を楽しむ
伊丹市昆虫館の活動



坂本 昇（伊丹市昆虫館）

第６回博物館協会賞を受賞しました



賞状

日本博物館協会賞

伊丹市昆虫館 殿

貴館は昆虫をテーマとする市立の公立博物館として生きた昆虫の展示や個性的な企画展等を通して昆虫の魅力を紹介し評価を得てきました とりわけ行政や市民と連携した「鳴く虫と郷町」は地域社会全体を「学びの場」として活用する上で大きな成果を挙げています

これら開館以来三十年以上にわたる貴館のたゆまぬ努力と貢献は他の博物館の模範となるものです

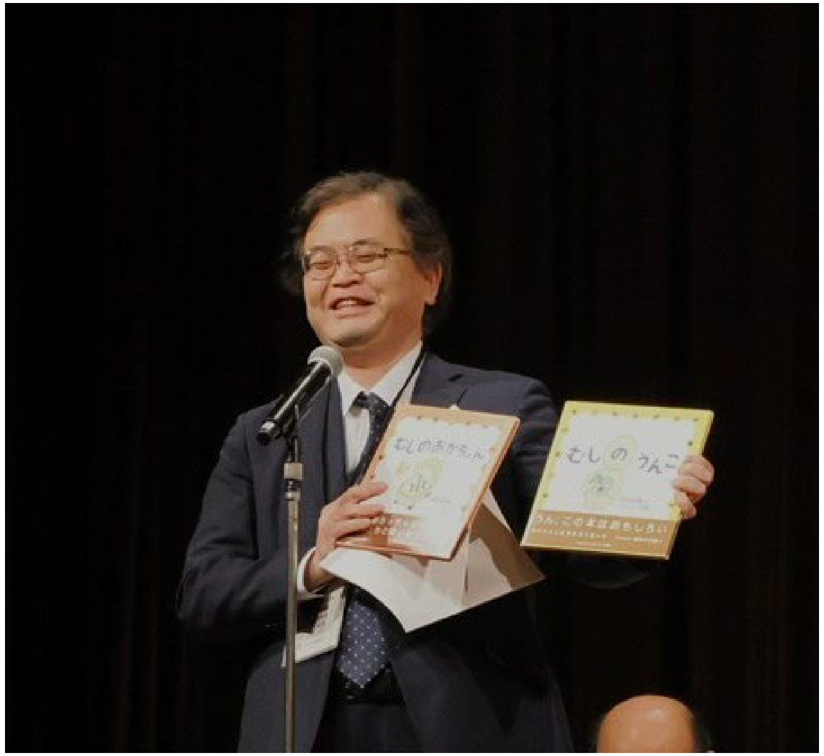
よってその功績をたたえこれを賞します

令和七年十一月十九日

公益財団法人 日本博物館協会

会長 山梨絵美子

第六号

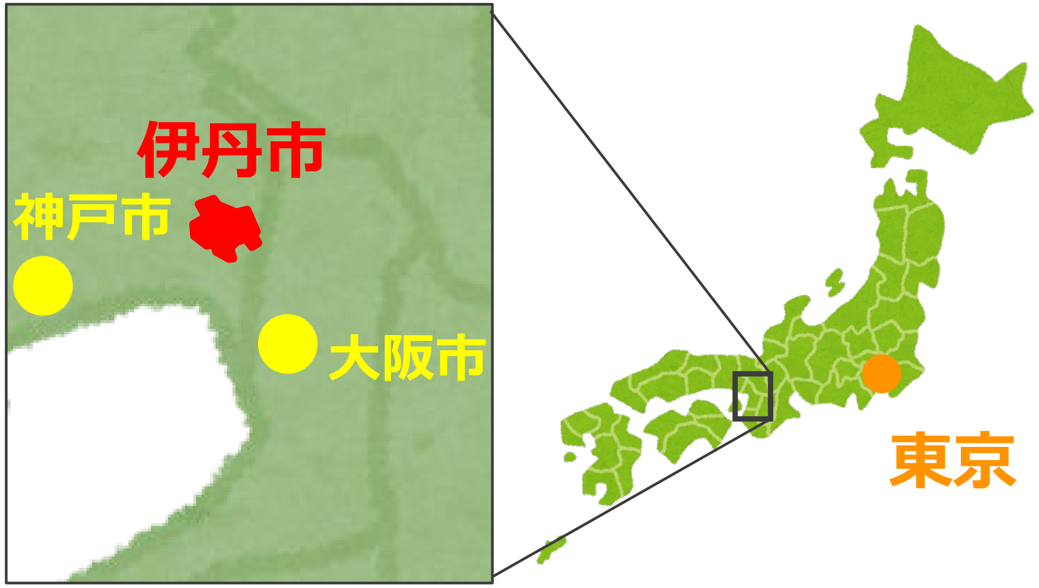


撮影：奥山清市さん

生きた昆虫の展示、個性的な企画展
鳴く虫と郷町などの地域での活動

企画展をもとにした絵本を手に
登壇された栗原選考委員長

兵庫県伊丹市



- 阪神間にある**兵庫県**の市
- **大阪国際空港**（伊丹空港）のまち
- 人口**約19.5万**、市域 7×6.5ｋｍ
- 中心市街地「**伊丹郷町**」は江戸時代に**酒造業**で栄えた（日本遺産にも認定）

伊丹市昆虫館の概要

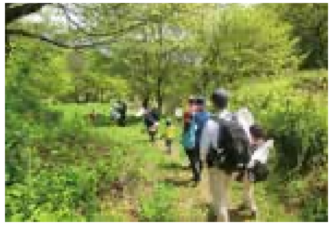
- 公園の中にある、
  昆虫をおもに扱う自然史系博物館
- **１９９０年**開館
- 延床面積 **約3,０００㎡**
- 市立で**指定管理者**が運営
  公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団
- 博物館指定施設（登録準備中）
- 年間入館者数は**１２～１４万人**
- 職員数 **２８人**
  (うち学芸職員 **６**人)
  - 博物館教育（鳴く虫、昆虫食）
  - 植物生態（ミツバチ、はやにえ）
  - 昆虫分類（カメムシ、アリ）
  - 昆虫生態（クワガタムシ）
  - 昆虫生態（チョウ飼育、虫のうんこ）
  - 鳥類生態（イモムシ、鳥）

阪神淡路大震災で被災したチョウ温室（1995）

震災後、再オープン日のようす（1995）

伊丹市昆虫館の活動

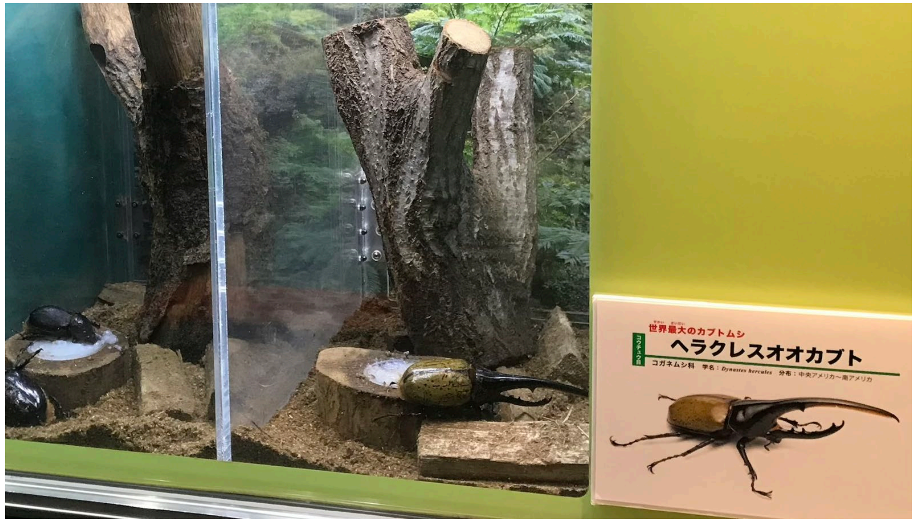
- **生きた昆虫**を飼育し、
  常設で展示
- **特別展**年1回、
  企画展年3回、
  プチ展示を年10回程度
- 資料 **約13万点**(昆虫標本)
- 講座、観察会など
  年間**30-30回**程度
- 市内学校園への出講
  年間**25-30回**程度
- 友の会は会員約400人
- ニュースレター年2回
  研究報告年1回発行



虫を通して人と自然の距離をちぢめ、人々の交流の場となる博物館をめざす

伊丹市昆虫館の常設展示

一年じゅうチョウの飛ぶ温室



各種の生きた昆虫

昆虫の生息環境　拡大ジオラマ

地域と世界の昆虫標本

さまざまな昆虫とその行動を観察して、観察や発見の面白さを見つけだしてほしい

チョウ温室と飼育作業

吸蜜、求愛、産卵などのチョウの生活を観察できる
その裏では、**飼育繁殖作業**を休まず続けている

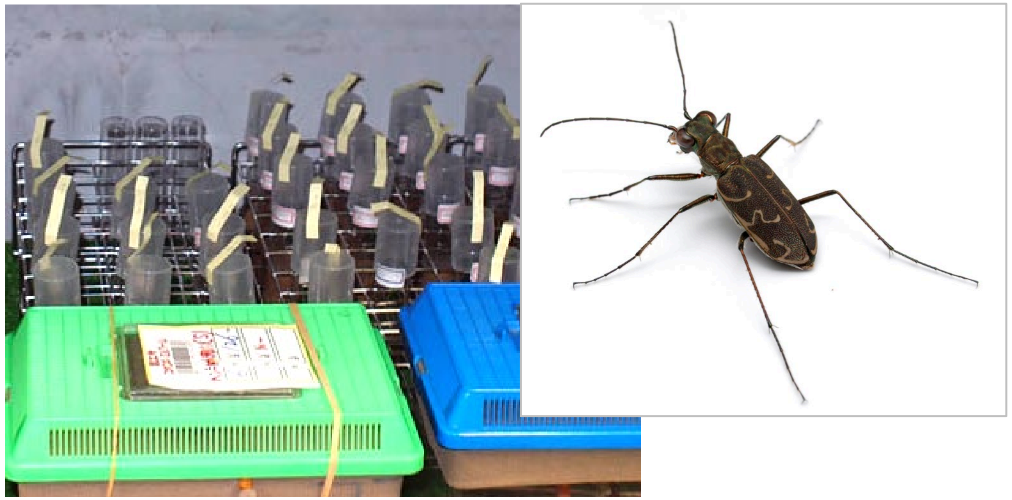
希少昆虫の生息域外保全

- 絶滅しそうな昆虫を**生息地の外で飼育し保全**する活動
- **環境省**と**全国昆虫施設連絡協議会**の連携のもと、生息地の方々や各生物の専門家と協力して実施

当館で扱う昆虫

・オガサワラハンミョウ、
・フサヒゲルリカミキリ、
・フチトリゲンゴロウ、
・マルバネクワガタ類、
・ウスイロヒョウモンモドキ

野生生物保護功労者として表彰（2024）
希少種保全動植物園等に認定（2025）



オガサワラハンミョウ

ウスイロヒョウモンモドキ

伊丹市昆虫館の特別展・企画展

- **特別展**年1回
- **企画展**年3回
- **プチ展示**
年10回程度
- 基本的に全て
独自企画

「虫とのお祭り」をテーマ

にぎやかな展示室

夏の定番特別展

「いたこん★カーニバル」

個人来館者を対象にした
体験型多めの展示

ワイワイと**楽しみながら**
虫に親しんでもらう

懐中電灯での観察

伊丹市昆虫館の企画展

企画展「むしのうんこ」（2023）:様々な虫のうんこと、うんこからわかる虫の生態や成長を紹介

- **学芸職員の得意分野、常設展示や普段の業務を深堀り**したテーマが多い。
  年1回は必ず**地域の自然**

企画展「伊丹の自然」（2025）

伊丹市昆虫館の企画展

企画展「昆虫食～これうまいでぇ」（2026）：日本と世界各地の昆虫食文化を紹介

- **企画展**では、独自の視点で集めたコレクションや情報で、**昆虫の新たな見方、より深い見方**を提示する
- 同じテーマを**何度も開催する**こともある
→独自コレクションにもつながっている

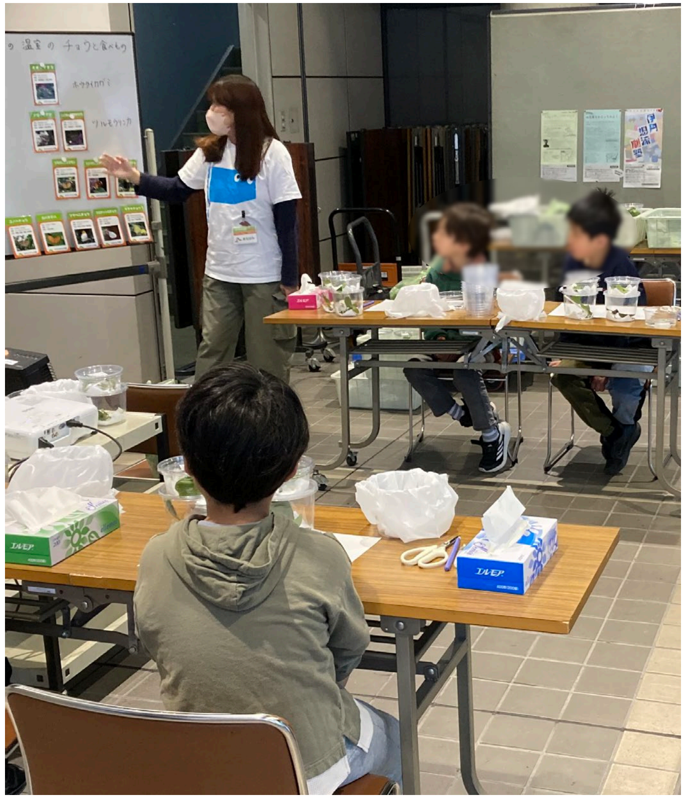
街での活動ー伊丹市昆虫館での基本的な姿勢

市内で声がかかったら、できるだけ応えたい

- 地域の博物館として当然
- 博物館活動の舞台は施設内だけじゃない
- 市内の人に事業を届けることで、存在を知ってもらいたい

街の一員として一緒に街を楽しみたい

- 街をつくるのは**街の人びと**
- 博物館の資源**（資料と学芸員）**を活用してもらいたい



商店会の職場体験イベント

地域での事業

ショッピングモールでの出張展示

河川敷での清掃イベント

市内施設イベントへのブース出展

演劇ホールでのコラボ展示

郵便局・図書館との絵はがき事業

地域での連携事業　鳴く虫と郷町（なくむし と ごうちょう）

◀歴史的建物での鳴く虫展示

スズムシ▶

▼手芸屋さん

- **鳴く虫**で**秋の訪れと街を楽しむ**事業
- 9月中旬の10日間、**主に中心市街地**で開催
  15種3,000匹の鳴く虫展示。**2006年**開始
- 昨年は**約80団体**が参加、**73**の展示・イベント
- 実行委員会で運営。伊丹市昆虫館もその**一員**

メイン会場 旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅（市立伊丹ミュージアム）

▲地域のお月見の設え（市立伊丹ミュージアム）

◀各種鳴く虫の展示（伊丹市昆虫館）

和の建物での虫の声で、秋の風情を楽しむ

市街地も展示会場

広場での鳴く虫展示

虫は小さいが、
通りがかりに虫の声を耳にできる

書店

お寺

ワインバー

通りのライトアップ

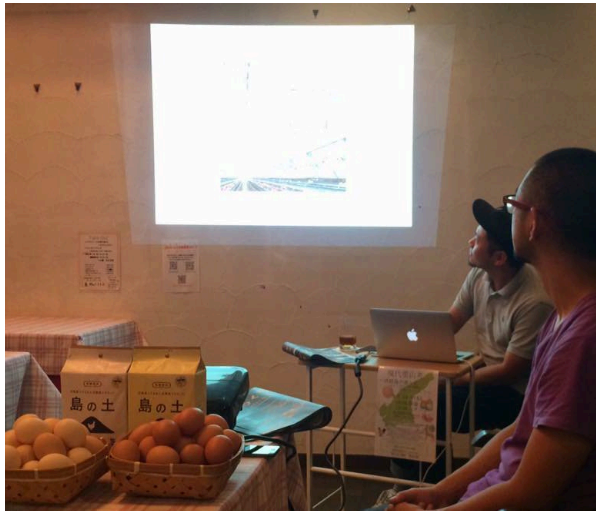
多彩なイベント

広場でのコンサート

飲食イベント

展示昆虫の解説

- 各展示やイベントは基本的に**立案した実施者**が行う
- **虫や秋に関わっていれば**関連イベントとして成り立つ
- ゆるさ故に、市民グループや商店などが**イベントを企画できる機会**になっている



レストランで里山勉強会

プラネタリウムでのコンサート

展示昆虫の準備もイベント化

スズムシ里親プロジェクト

キリギリスハンター

鈴虫のケースづくりの会

「みんなでつくる」事業になっていった

おわりに：これからも大切にしたいこと

いろんな**人々の支え**で、
これまで運営してこられた

これからも、

- 基本的な**博物館活動の充実**に努め
- **地域の一員として、人々と一緒に**まちのことを考え、汗を流し、楽しむ博物館

でありたい